

津波浸水想定、被害想定
の調査内容と進め方について

1 津波浸水想定 of 検討

基本方針

最大クラスの津波を想定して、その津波が悪条件下で発生した場合に想定される浸水の区域及び水深を津波浸水シミュレーションにより設定

調査内容

※「津波浸水想定 of 設定の手引き」に基づき検討

①過去に発生した実績津波の整理

- ・東北大学津波痕跡データベースを活用



②最大クラスの津波 of 設定

科学的知見を踏まえ、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの津波を設定

- ・中央防災会議や地震調査研究推進本部等の公的機関が妥当性を検証したものとして発表している断層モデル
- ・日本海検討会による新たな津波断層モデル(60断層253ケース)
- ・隣県で検討された独自の断層モデル(秋田、新潟等の独自モデル)



③計算条件 of 設定

- 1.津波 of 初期水位(断層モデル)
- 2.潮位(天文潮)→朔望平均満潮位を基本とする
- 3.計算領域及び計算格子間隔
- 4.地形データ作成
- 5.粗度係数
- 6.各種施設の取り扱い
- 7.地震による地盤変動
- 8.河川内の津波遡上 of 取り扱い
- 9.計算時間及び計算時間間隔
- 10.各施設の条件設定(各種施設の沈下、破壊、閉鎖開放等の条件設定)



④津波シミュレーション(津波浸水想定)

- 津波浸水シミュレーション結果 of 出力
- ・最大の浸水の区域、水深、基準水位、到達時間 等

検討委員会

第2回検討委員会

①計算対象とする津波断層について

- ・抽出方法 of 妥当性を評価
- ・抽出した断層モデル of 妥当性を評価



第3回検討委員会

②計算条件について

- ・各計算条件設定方法 of 妥当性を評価



第4回検討委員会

③津波浸水想定(素案)について

- ・シミュレーション結果 of 評価



第5回検討委員会

津波浸水想定 of 最終(案) of 評価



2 被害想定 の 検討

基本方針

最大クラスの地震、津波を想定して、その地震、津波が悪条件下で発生した場合に想定される被害想定を算出する。

調査内容

※「南海トラフ巨大地震の被害想定項目及び手法の概要」に基づき検討

①前提条件の整理、検討
・計算対象とする津波断層モデルによる地震を、想定地震として設定
・被害想定単位、被害想定項目(建物、人的被害等)

②計算条件の設定
1.地震動解析→液状化危険度の算出
・地震動波形の算出、断層パラメータの設定、地表の計測震度の算出
2.津波解析
・メッシュ構成、潮位、想定地震、計算時間、粗度、構造物等の設定
3.想定時間・気象条件の設定
・季節・時間帯(冬深夜、夏12時、冬18時)、・気象条件(風向、風速)

③被害想定
1.建物被害、2.人的被害、3.ライフライン被害、4.交通施設被害
5.生活への影響、6.災害廃棄物等、7.被害額 など

検討委員会

第2回検討委員会

①前提条件について
・被害想定単位、項目の評価

第3回検討委員会

②計算条件について
・各計算条件設定方法の妥当性を評価

第4回検討委員会

③被害想定(素案)について
・津波被害想定結果の評価
・地震被害想定結果の評価

第5回検討委員会

被害想定(最終案)の評価